

地域をつなぐ「子どもの居場所」

主催：鳥取県立生涯学習センター

共催：西部地区社会教育担当者研究協議会

10月5日（土）13:00～16:30に、日吉津村の「ヴィレステひえづ」で開催。講師は、認定特定非営利活動法人 Learning for All 子ども支援事業部マネージャーの宇地原栄斗さん。「子どもの居場所づくりについて考える～子どもを応援する地域を目指して～」と題してご講演いただきました。「居場所は自己肯定感や自己有用感に関わり、子どもが孤立せず地域の中で健やかに育つために必要で、子どもと共に作る事が求められている」と話されました。講演中にワークもあり、子どもへの支援を決める場に子どもが不在のまま議論を進めることの危うさを参加者が体験することができました。講演の後は、ワールドカフェ方式で「子どもの居場所」をテーマにワークショップを行い、子どもの居場所（現在）／これから求められる居場所（未来）の2つのテーマで意見を出しあいました。



子ども・若者本人が居場所をどう感じるかが大事。関わる大人は指導・助言ではなく共感することが子どもの自立につながる。

講師の宇地原さん



場所・時間・人との関係性すべてが居場所になりえることが共有されました。



ファシリテーターは大山町まちづくり課の柏尾さん



居場所にはゆるさしてほしい



つながらないで一人であることも大事

参加者の声

- 決まった場所じゃなくても、少しの時間、数人で集まって何かをすれば、それも居場所になるのかな。考えが深まりました。
- 居場所も色々な雰囲気のある場所がいいのかな。安心できる場所、色々な人がごちゃ混ぜな場所、公共施設や身近な人の家など。
- 子どもが居場所だと思える所が居場所という事。子どもが自分で自分の事を決める事ができる場所、これはすごく大事。
- 自分ができそうな事は何か考えて、やれそうならやってみます。



県立図書館の出前図書館